

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年5月30日現在

機関番号：16301

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22520051

研究課題名（和文） 遺跡調査に基づく中国仏教の地域的歴史文化の研究

研究課題名（英文） Research on the local history and culture of
Chinese Buddhism based on archaeological prospection

研究代表者

邢 東風 (Shin Tonfon)

愛媛大学・法文学部・教授

研究者番号：50335882

研究成果の概要（和文）：

本研究は、中国四川省の安岳地方・湖北省の荊楚地方・江西省の宜春と贛州などの地域を中心として、各地の仏教遺跡の現地調査を行い、これに文献史料の考察も加えることによって、それぞれの仏教遺跡の確認や新しい史料の発見、また、明代前期四川仏教の代表的人物の思想や経歴、天台智者の出身地の所在、当陽玉泉寺関羽信仰の発生・変化の経過、江西地方の禅宗発達の原因等の解明、という成果を挙げた。

研究成果の概要（英文）：

In this research, we have conducted a field survey on Buddhist ruins including Anyue (安岳) of China Sichuan, Jingzhou (荊州) of Hubei, Yichun (宜春) and Ganzhou (贛州) in Jiangxi, and added further considerations based upon a survey on documentary records. As a result of these surveys, we have clarified the thoughts and personal histories of some representative persons of Sichuan Buddhism in the first half of the Ming Dynasty, the location of the birthplace of the Tiantai-Zhizhe (天台智者), the process of the rise and development of worship of Guanyu (関羽) at Yuquansi (玉泉寺) in Dangyang (当陽), and the causes of the development of Zen Buddhism in Jiangxi area, etc.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2011年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2012年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	2,800,000	840,000	3,640,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学、印度哲学・仏教学

キーワード：仏教学・仏教史全般

1. 研究開始当初の背景

中国仏教の研究は、従来、思想的、理論的な問題を主たる対象としており、各地の仏教の実態に関する考察が少ない、また、用いられている研究資料は、殆ど歴史文献の記述に限られ、文献以外の遺跡や実物、伝説などの資料を利用した、特定の時期や地域における仏教に関する総合的な研究は希少である。しかし、仏教は単なる思想的なものではなく、文献に記載されているのは仏教歴史の一部にすぎない。実は、中国では、「未開拓」のまま遺ってきた仏教の歴史遺跡が今でも各地に散在しており、それは遺跡所在地の仏教歴史文化を具体的に反映しているもので、中国仏教の研究において無視してはいけない資料となる。それ故に、遺跡調査に基づく中国仏教の歴史文化の研究は重要な研究課題となり、本研究はその一部である。

2. 研究の目的

本研究は、中国四川省の安岳地方・湖北省の荊楚地方・江西省の宜春と贛州などの地域を主たる対象とし、当該地域の仏教遺跡の現地調査と、歴史文献の記述や先行研究の成果を参考にして、それぞれの仏教遺跡の確認、それに関連する史実の究明、仏教文化の特色の検討などを取り扱うものである。

また、今後の研究を展開させるために、他の地域に遺る一部の仏教遺跡をも対象とし、本研究と同様の方法をより広い範囲に用いて、現地の遺跡に関連する仏教歴史文化の実態を明らかにする。

3. 研究の方法

(1) 特定地域の仏教に焦点をあて、これまでの遺跡調査によって収集した資料を分析・整理すると共に、関係のある文献史料及

び研究成果を参考にして、研究の具体的な課題を確定する。

(2) 明確且つ具体的な問題意識を持って遺跡調査を行い、本研究と関係のある旧跡や碑銘・鐘銘・伝説、現地固有の関係史料、及び現地研究者による研究調査の成果などができる限り蒐集する。

(3) 調査後、蒐集した資料のチェック・分析・整理などの作業を行った上で、資料集を纏める。

(4) 更に充実した文献調査を行い、明らかになった問題は随時、学術論文として纏める。

(5) 特定地域の仏教歴史文化の総合的な研究を行うので、特定の問題に限定せず、遺跡史料から見出された問題を解明するために、関係のある各学術分野の知見や参考資料を幅広く活用する。

4. 研究成果

(1) 古拙俊（約1330—約1415）・無際了悟（1381—1446）・楚山紹琦（1404—1473）の師弟三人を中心として、明代前期四川仏教の実態の一部を解明した。この三人は、臨済宗の径山師範系の伝承者であり、明清時代の四川及び中国南西地方の仏教の発展に対して多大な影響を与えた人たちであるが、高僧伝や伝灯史などの記述が不十分であるため、彼らの思想と活動は明らかにされていなかった。本研究は、数年前、新たに発見された明代刻本の『楚山紹琦禪師語録』を踏まえて、紹琦の心性観を検討した上で、更に、古拙・無際関係の遺跡調査や現地資料の収集・整理などを行い、新しい史料の発見、既存文献史料の訂正、関係遺跡の確認、彼らの思想や経歴と関係伝説の考察を通じて、この三人の史料と史実を、より全面的に把握した。

(2) 天台智者の出身地と当陽玉泉寺の関羽

信仰とを中心として、荆楚地方の仏教歴史文化の一部を明らかにした。

天台智者（538-597）は、東アジア仏教史上において非常に重要な人物であるが、彼の出身地がどこにあったかという問題については、従来、曖昧にされたままであった。隋唐時代の歴史文献の記述によれば、彼の出身地は「荊州の華容県」であるというが、現代の研究者たちはその華容県がどこにあるのかを自ら検討しないで、一般の歴史地理辞典に頼って勝手に解説している。本研究は、歴史文献の記載の検討、華容県の歴史的考察、宋・明・清など歴代の「公安説」の分析、公安県の関係遺跡の調査などを踏まえて、天台智者の出身地が現在の湖北省公安県にあったということを論証し、更に、近年来湖北省荊州地方で生じた「智者の故郷」をめぐる論争に対しても明確な回答を与えた。

湖北省当陽市の玉泉山（玉泉寺）は、関羽信仰の発祥地としてよく知られているが、この信仰の発生と変化については、様々不明の点がある。本研究は、現地調査によって発見した当陽玉泉寺における元代の鐘銘を手がかりとして、更に、宋代の玉泉承皓（1011-1091）の経歴、及び張商英（1043-1121）の記述に対する考察を通じて、関羽信仰は、最初は玉泉寺の仏教とは無関係であったが、宋代に玉泉寺仏教の護法神となり、明代にその護法を受けた人物が智者大師から普浄禪師に変わった、という事実を究明した。

（3）贛州と宜春の禪宗遺跡を中心として、江西地方馬祖道一（709-788）以降の禪宗の実態を明らかにした。江西地方は唐の時代から中国禪宗の一大拠点となり、現在でも数多くの遺跡が遺っている。これまで、日中両国の研究者による遺跡調査によって一定の成果を挙げられているが、更に詳細な調査の必要もある。本研究では、現地調査を通じて、

禪宗が宜春地方で発達した原因は、当時の江西・湖南の間の交通に関わることを判明し、また、贛州宝華寺にのこる唐技撰「智蔵碑銘」（北宋の石碑）の再確認もできた。

（4）本研究の遺跡調査の方法をより広い範囲の対象に用いた成果として、上記地方以外の地域に遺る遺跡、例えば、四祖道信（580-651）の遺跡、海雲印簡（1202-1257）の遺跡、北京広通寺の遺跡などを考察し、それぞれの関係史実を明らかにした。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 10 件）

- ①邢東風「再論智者大師的出生地—關於『智者故里』之我見」/『中国仏学』第 32 号/査読有/2012 年 12 月/pp. 1-15
- ②邢東風「再論智者大師的出身地—關於『智者故里之爭』的看法」/『慧思大師研究』/査読有/岳麓書社出版/2012 年 12 月/pp. 1046-1067
- ③邢東風「海雲印簡禪師相關遺跡漫談」/『遼金元仏教研究』下/査読有/大象出版社/2012 年 11 月/pp. 553-583
- ④邢東風「四祖道信的伝記和遺跡」/『黄梅禪研究』/査読有/中州古籍出版社/2012 年 4 月/pp. 430-463
- ⑤邢東風「道林無際禪師考」/『臨濟禪研究』/査読有/中州古籍出版社/2011 年 10 月/pp. 252-287
- ⑥邢東風「關於古拙・無際的資料与遺跡」/『禪文化』/第 1 集/査読有/中州古籍出版社/2011 年 4 月/pp. 505-535
- ⑦邢東風「当陽玉泉寺関公顯聖伝説考」/『中日韓天台学術対話』/査読有/人民出版社/2011 年 4 月/pp. 287-299

- ⑧邢東風「智者大師出身地考辯」/『普門學報』/第58号/査読有/2010年7月/pp.129-178
- ⑨邢東風「当陽玉泉寺元代鐘銘及関公顯聖伝説之考察」/『普門學報』/第57号/査読有/2010年5月/pp.95-129
- ⑩邢東風「古拙俊和尚及びその資料と遺跡」/『東アジア仏教研究』/第8号/査読有/2010年5月/pp.41-56

〔学会発表〕(計10件)

- ①邢東風「仏法与王権—以道安・慧遠・神会為例」/「2012' 襄陽道安論壇」/2012年12月20日/中国・湖北省襄陽市
- ②邢東風「從地方性看禪宗的形成与發展」/「中国湖北第三回黄梅禪文化論壇」/2012年12月15日/中国・湖北省黄梅県
- ③邢東風「北京広通寺小考」/「元代北京仏教学術研討会」/2012年10月21日/中国・北京市
- ④邢東風「海雲印簡禪師相關遺跡漫談」/「第二回河北禪宗文化論壇」/2012年5月19日/中国・河北省邢台市
- ⑤邢東風「四祖道信的伝記和遺跡」/「中国湖北第二回黄梅禪宗文化論壇」/2011年10月27日/中国・湖北省黄梅県
- ⑥邢東風「關於朱弁的追跡調査」/「遼金佛教檢討会」/2011年10月9日/中国・北京市
- ⑦邢東風「再論智者大師の出身地—關於『智者故里之爭』的看法」/「慧思大師与南岳仏教」學術檢討会/2011年8月16日/中国・湖南省衡山市
- ⑧邢東風「道林無際禪師考」/「第一回河北趙州禪・臨濟禪・生活禪學術論壇」/2011年5月15日/中国・河北省石家莊市
- ⑨邢東風「玉泉承皓禪師考」/「昭覺寺第一次円悟克勤禪師及『禪茶一味』」國際學術

檢討会/2010年11月23日/中国・四川省成都市

- ⑩邢東風「公安三袁与智者大師」/「唐宋文学与仏学」國際學術檢討会/2010年6月27日/韓国・ソウル市

〔その他〕

ホームページ等

<http://readopac2.ncl.edu.tw/>

<http://www.gashw.com/>

<http://fo.ifeng.com/>

<http://fo.ifeng.com/>

<http://www.amazon.cn>

<http://book.360buy.com>

<http://baike.baidu.com>

<http://www.zhfgwh.com>

<http://fo.ifeng.com>

<http://search.ifeng.com>

<http://www.shanxifojiao.com>

<http://www.dadunet.com>

<http://zt.dadunet.com/huangmei>

<http://qing.blog.sina.com.cn/tj/51a9a2650101gc0z.html>

<http://www.bookschina.com/5770867.htm>

<http://www.baohuasi.org/gnews/20111213/20111213269997.html>

<http://auction1.paipai.com/B65FF6320000000040100001F81E73C>

<http://www.nhfjw.org/zjlf/2013/2349.htl>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

邢東風 (Shin Tonfon)

愛媛大学・法文学部・教授

研究者番号：50335882